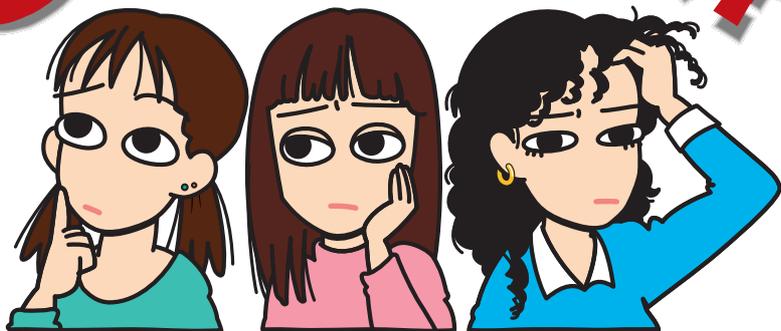


# ぜっとなってるの？



今月はインターネット放送について激しく迫る。女性はとかくテレビが大好き。今回は24歳OLトリオが、インターネット放送を初めて体験。はっきり言ってテレビより絵も音も品質が低いけど、満足したのだろうか。果たしてインターネット放送は誰でも楽しめるのか？

photo: Kazuo Hiroji  
Illustr: Kido Satoko  
text: Takako Yoshida (KAPS)

**高槻** すごく初歩的な質問なのですが、そもそも、J-Stream って何をやるものなのですか。

**古株** 動画というのは、静止画像に比べてデータ量が膨大で、これまでインターネット回線で送ることが難しいとされてきたんですね。でも、データを圧縮する技術が向上したこと、放送に必要なデータをサーバーからダウンロードしながら次々に再生していく「ストリーム再生技術」というものが可能になったことから、従来のテレビのように、インターネットで動画や音声を楽しめるようになったんです。「ストリーム再生技術」ができる前までは、インターネットで動画を見ようと思ったら、その動画のデータを全部ダウンロードしてからでないと見られなかった。データ量が大きいから、ダウンロードにもすごく時間がかかったし、場合によっては、受信するマシンの能力を超えてしま

J-Streamっていったい何をしている会社なの？

って、受信できないこともあったりね。J-Streamは、それらの問題を解決して、インターネット放送を快適に発信するための「インフラ」を提供する会社なんです。わかるかな？

**高槻** どの放送番組をやっていますか？

**古株** 多いものはエンターテインメント系。最近ではSPEEDやユーミンのライブとか、格闘技みたいなものとか、アニメとかもあります。でもまだ、ビジネス寄りの番組というのはなかなかないんです。ほんとだったら今日の東京外国為替市場とか、イラクの情勢について、あ

なたはどう思いますかとかを放送すればいいんだと思うんですよ。でもまだそういう放送は逆に受け入れられていないのね。なぜかっていうと、たとえばコンピュータから動画を見ると、音が出て、絵が出るということじゃないですか。そうすると、周りの人は、あの人は仕事をしていないという風に見える。テレビをつけて仕事をしていたら、仕事していないんじゃないかと思われるでしょ。キーボードをカチャカチャいじってれば仕事をしていると思われるけど、パソコンから音が出て、「今日のお天気は...」とか流れると、みんな「えっ!？」って見るでしょ。

だからまだビジネスのスタイルとして、画面から音が出てそれを聞くことが仕事だと見られないという風潮があると思うんですよ。ただ、昔、15年ぐらい前にパソコンが出てきたばかりの頃、キーボードに向かってカチャカチャやっていると、コンピュータゲームしているんじゃないかと思われてた時期があった。だけど、7年ぐらい前にワープロ専用機が出てきて、おじさんたちがワープロ専用機で毛筆体の年賀状をやたら送ってくるようになった。そういうときってけっこう変わり目、おじさんたちがキーボードを使い始めると、部下の女の子とかがキーボードたたいてても、あ、仕事しているんだ、と理解してくれるようになったんだよね。それで今はもうすっかりキーボードたたくのが仕事だってなってるけど、まだコンピュータ画面から音や絵が流れるということが仕事をしているとは思われない。でも、だんだん、ビジネスの情報が受け入れられるようになってくれれば、と。

今月の質問に答えてくれる人



古株 均(こかぶ・ひとし)氏

株式会社Jストリーム取締役副社長

今月の質問する人



高槻 美帆さん(24歳 OL)

会社で好きなアーティストのホームページをこっそり見えています。動画は見られるようになるまでがなかなか大変。設定が難しくて苦労しています。



金子 順子さん(24歳 OL)

パソコンは仕事で使うことがほとんど。インターネットで動画を見るというのは、テレビに比べてまだまだだと思うので、必要性を感じないんです。



先崎 美希子さん(24歳 OL)

パソコンはいじるけど、インターネットの用語がチンプンカンプン。こんなワタシでも、本当に楽しむことができるんでしょうか。

企画・構成 KAPS

## 著作権はどうなるの？

**先崎** アーティストのライブなどがどんどん流されたら、著作権の問題なんかが出てくるのでは？勝手にインターネットに流す人も出てくるかもしれないし。

**古株** それは大きな問題で、著作権については今後いろいろ出てくると思います。たとえばアーティストでなくても、みなさんこうやってしゃべっているのを僕が撮ってちょっと流しちゃったら、肖像権はどうなるの、とかね。今はまだ、法律のほうがついてきていないし、クリアでないところが非常に多くてね。

でも、今年の1月1日から著作権の法律って変わったんですよ。去年までよりも厳しくなっていて、「送信可能化権」なんていうのも出てきましたから。その辺の話については、まだ、一言でこうとはっきりしたことは言えないんですけど、映画とかミュージシャンのビデオみたいなのを流す場合については、基本的にはレコード会社や映画会社からの仕事しか受けないと決めています。それ以外の子供の運動会とかいうのは、著作権は問題にはされないし、そっちのほうももっと面白い。もっともっとそういうのをやって欲しいと思うんですよ。それとかインディーズ系のアーティストで、自分がかっこいいバンドやっているんだけど、見せる場がない、とかいうのを使って欲しいね。でも、そのバンドがカバー曲を演奏しちゃうと、また著作権にひっかかるんだけどね(笑)。



**金子**：テレビのほうが画像もキレイだし、通信費もかからないと思うんですけど、テレビとの違いやメリットはあるんですか？

それから、こんな使い方もできる。例えばイギリスに留学していたとして、イギリスの友達から犬をもらって日本に帰ってきた。で、何年かたって、その犬に子供が生まれたとするでしょ。そしたら、こんなにかわいい子犬が生まれたよってイギリスの友達に見せてあげたいと思うじゃないですか。

## 「テレビ」と「インターネット放送」の違いは？

**古株**：まず、インターネットで放送する中身は、絶対テレビでやらないものじゃないとダメだと思う。テレビでやるようなものはテレビで見ればいいんだもの。そのほうがきれいだし。

たとえば、あなたの趣味は何ですか？

**金子**：スポーツ、かな。今は仕事が忙しくてなにもやっていないんですけど、高校の頃はバスケットをやりました。

**古株**：ああ、バスケットをやっていたんだ。じゃあ、仮に実業団のチームで好きな選手がいたとするじゃないですか。でもそんな試合、絶対テレビでやったりしないじゃない。でも、好きな選手がいて、そのバスケットの試合を30円で見られるっていったら、それは見るかもわかんないでしょ。だから、そういう絶対テレビでやらないものをやるのが、このJ-Stream。何百万人の人が見ても面白いと思うのはテレビでやればいいし、数万人が見るのはケーブルテレビでやればいい。そうじゃなくて数十人の人が見るのはこれでやればいい。

まあ、ビデオを撮って送ればいいんだけど、ビデオの形式とか違うし、よくわからない。そんなときに、ビデオで撮った犬の映像を、インターネットのこういうところにあげてやって、ここに行けばあなたがくれた犬の映像があるから見て、といえいい。そのとき見る人は5人が10人もかもしれない。でもインターネット放送の場合は、テープを送らなくても距離感がゼロになっちゃう。そういう風に使えればいいと思うんですよ。

**金子**：個人で発信しようとしたときにはどんな機材が必要ですか。

**古株**：まあ、圧縮技術だとかがそういうところまではみんな使えないですよ。個人レベルなら、ビデオカメラは今みんな持っているじゃないですか。撮るのもかんたんなので、ビデオを撮って、これを流して欲しい、とテープをJ-Streamに渡してくれれば、そういうサービスができるよね。

僕は、映画のプロモーションだとか、アーティストのライブとかは、極端な話、インターネットでなくてもいいと思うんですね。犬を見せてあげたいとか、遠くの友達に、結婚したんだというのを流してあげるとか、アメリカだと1週間何十ドルでケーブルテレビで流してくれるんだけど、日本にはそういうの、ないじゃない。あるとしたら、渋谷のハチ公前に電光掲示板が

あるでしょ。で、彼と2人でいるときに、午後4時になったら、「何とかちゃん、お誕生日おめでとう！！」ってばーんと一発流れて、はい2000円、赤と白2種類の色が選べます、ってそれぐらいしかないんだもの。だから、こういうメディアを個人に開放してあげたいと思うんですよ。

**金子**：個人で流してもらうとしたら、料金はどれくらいかかるんですか？

**古株**：例えば、「何時何分に流しますよ」というやりかただったら、みんなその時間に見に行かなくちゃいけないから不便でしょ。だから、1か月間ずっと置いておいて、世界中に流せて、誰でも自由に見られて、2万円ぐらいかな。

**金子**：思ったより安いですね。じゃあ、彼氏募集中で、って自分のプロフィールを流したりもOKですか？

**古株**：うん、そうそう。実は今、「彼氏募集中」とか「売ります買います」とか「仲間募集」とかいうのを、全部チャンネルごとに分けて作ろうと思ってます。でも、そういうのが増えるとますます仕事に見られなくなるかな。モニターを思いっきり暗くして、画面も小さくして、イヤホンで見てもらおう(笑)

## 個人でインターネット放送を発信するには？

もっと見たかったらここにアクセス!

女性ビギナーのためのウェブマガジン  
**My Firstパソコン**  
<http://www.kaps.co.jp/>



まだまだ圧倒的に男性ユーザーが多いパソコン。パソコンに興味はあってもなかなかとりつきにくい、わかりづらい、という多くの女性のための「簡単!」「わかりやすい!」楽しいハウツーページがこの「My Firstパソコン」だ。インターネットらしくマスター術やデジタルを使いこなすステキな女性の紹介などを、毎週火曜日更新で連載中。また、本連載の「My First Question ~ どうなってるの?」の模様もウェブ上で紹介している。



◎総ヒット数400万ヒットを記録したというSPEEDのライブ。インターネットで見られないというのが注目を集めた。

みなさん初めてこういうものを見たという方ばかりだったので、なにがなんだかわからない感じだったと思いますけど、関心を持って面白そうに見ていただいたようでした。

インターネット放送は今までなかった新しいものだから、今はまだいろいろやってみて、どんなものが向いているかを探る時代だと思います。僕らみたいなおじさんよりも、若い方のほうが断然柔らかい感覚をお持ちだし、若い20代の人たちがあっと驚くような使い方を考えたら、「なるほど、それがあつたのか!」っていうのが絶対出てくるはずなんです。みなさんに新しい使い方をどんどん考えていっていただきたいと思います。

## 古株さんいかがでした？





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)